

# 3年ぶりに 総合防災訓練実施

有珠山噴火災害を想定

**有** 珠山噴火災害を想定した総合防災訓練が8月11日、防災センターと役場庁舎周辺を使って3年ぶりに行われました。

各関係機関と参加した住民約130人の総勢400人が連携しながら、装甲車を使った住民救助などが、かなりな訓練を展開しました。

当日参加したのは、西胆振消防組合消防署、虻田消防団、自治会、北海道警察、伊達警察署、陸上自衛隊第七師団、洞爺協会病院など。

今回の訓練は、役場の防災研修ホール機能を初めて使用し、まず災害対策本部での災害対



避難者の指令を出す対策本部

応、状況・情報などの報告訓練を実施。その後9時に気象台から「今後数日内に噴火が発生する可能性が高くなった」との「緊急火山情報第1号」が発表された想定で避難訓練が展開されました。

災害対策本部では、すぐに洞爺湖温泉町と泉区の全域と入江地区の1部に避難を指示し、バスで住民を一時避難所から役場駐車場に設置した仮避難所に搬送しました。

また、逃げ遅れた住民を救出するため自衛隊及北海道警察の装甲車が出勤しました。



避難者をバスで搬送

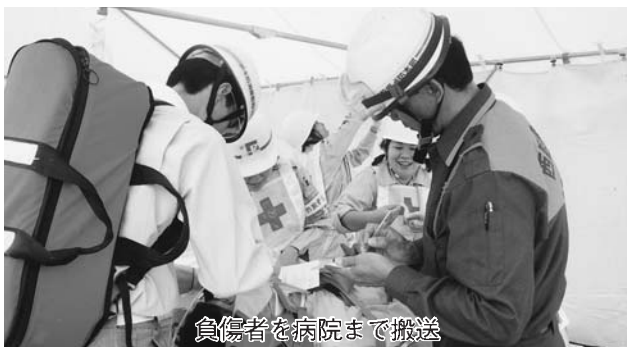
一方、役場駐車場では、交通事故により車内に閉じ込められた負傷者の救助も行われ、救急隊員や機動隊員の救出から病院への搬送まで緊迫したやり取りが、実践さながらに繰り広げられました。

今回予定していた、虻小グラウンドを離発着場としたヘリコプターの訓練は、霧による視界不良で実施されませんでした。

参加者らは、訓練終了後炊き出し訓練で作ったカレーライスを食しながら、噴火当時に思いを馳せていました。



逃げ遅れた住民を救出



負傷者を病院まで搬送



車内の負傷者を救出